

3月・教皇さまの 意向のために祈りましょう

- ①一般の意向：女性の尊厳
- ②宣教の意向：中国における教会の一致
- ③日本教会の意向：飢餓の克服

49年ぶり五島で司祭・助祭叙階式

あつい祈りに神は応えてくださる

2月11日午前10時、高見三司大司教の主司式のもと叙階式が行われた。受階者が五島出身者であったため、司教座聖堂ではなく、49年ぶりに郷里での叙階式となった。五島市福江文化会館は参列者千人の祈りに包まれた。新司祭は使徒トマ・岩下裕志師(福江)。新助祭はミカエル・中尾直通師(三井楽)。

ミサの前の教話で、司

と紹介した。

祭に叙階される岩下師の出身小教区主任司祭である小島 栄神父が、神殿で幼子イエスを抱いたシメオンを例に、民の祈りに神は必ず応えてくださる。今日岩下神父さま、中尾助祭さまが誕生することは、その明らかなしるしとなる。ミサの中で「大地の恵み、労働の実り、わたしたちの命の糧となるもので

司祭叙階 金祝・銀祝

今年も多くの聖職者が金祝・銀祝を迎える。司教ではイエズス会のジュゼッペ・ピタウ大司教が金祝、京都教区の大塚喜直司教は銀祝となっている。金祝司祭は34人、銀祝司祭は28人(カトリック中央協議会秘書室広報まとめ)。以下、長崎教区内の金祝・銀祝を紹介。

ヨゼフ

アギラール・ファン・ホセ神父(イエズス会)



1927年10月26日メキシコ国ワダハラ市生まれ。44年イエズス会入会。53年9月来日。59年3月18日東京・神田教会(当時のカテドラル)で司祭叙階。60年シカゴのロヨラ大学留学。62年から長崎26聖人修道院に在

住。63年から78年まで長崎教区カトリック学生指導者に任命。一方、63年から2003年まで長崎大学で教鞭を執る。

コンラード

濱田盛雄神父(コンベンツアル聖フランシスコ修道会)



1932年9月5日平戸市宝亀町生まれ。宝亀教会出身。59年3月18日東京・神田教会で司祭叙階。同年4月から聖母の騎

司教は、司祭・助祭となる2人にそれぞれの任務を説き、独身を守り、神のことに忠実であるようにと勧めて、聖別の祈りを唱え、新助祭には聖書を渡し、新司祭にはミサに用いるカリス(杯)を渡した。大きな祝福の拍手



大司教に続き、岩下新司祭に按手する小島神父

ミカエル 中村 満神父



1957年4月5日、五島市生まれ。浜脇教会出身。84年3月19日、浦上教会で岩崎師とともに司祭叙階。同年長崎公教学校、85年浦上助任、89年飽の浦助任、91年黒島主任、97年深堀主任、01年から本部事務局。

マルチノ 友永 忠次 助祭 帰天



長崎教区助祭マルチノ友永師が2月10日午後5時32分、胆管がんのため長崎・聖フランシスコ病院で帰天した。91歳。



あいさつする岩下新司祭(左)と中尾新助祭(右)

使徒聖トマス 岩崎康彦神父



1958年3月11日、長崎市生まれ。神ノ島教会出身。84年出津助任、86年三浦助任、92年三井楽・貝津主任、97年木鉢主任、01年大崎主任、08年から福岡教区・今村教会主任。

1917年平戸市田町生まれ。田平教会出身。47年大浦天主堂司教館に勤務、71年カトリックセンターへ転居。85年助祭候補者認可式、86年2月26日宣教師奉仕者・教会奉仕者選任式、同年7月6日大浦教会で終身助祭叙階。2003年1月引退。信仰に満ちた家庭に生まれ育ち、召集で戦地へ。帰還後、教区事務を一手に引き受け、いつも笑み

長崎教会管区司祭、修道者、信徒の皆様へ

神の恵みと多くの人々の協力のもと戦後日本の教区司祭の養成を担ってきた二つの大神学校の一つ、福岡サン・スルピス大神学院は、今年度をもって創立60周年を迎えると同時にその歴史をひとまず閉じ、来る4月からは日本カトリック神学院福岡キャンパスとして新たな出発をすることになりました。この歴史的転換期に際し、長崎教会管区司教団として、同管内の方々にごあいさつを申し上げたいと思います。

1. 日本における司祭養成の歴史の中で

まず、当神学院での養成が日本における司祭養成の歴史にたつたことを思い起こしたいと思います。聖フランシスコ・ザビエルの来日からおよそ半世紀後の1601年、日本人最初の司祭イエズス会員セバスティアン・木村とルイス・ニアバラの2人が長崎で叙階されました。さらに1604年には、イエズス会員によって養成された日本で最初の教区司祭2人も誕生しました。

禁教時代に入ると、彼らは宣教師たちと共に命がけで司牧し、司祭養成はマニラやマカオなどで行われました。しかし、1644年に殉教した小西マン

福岡サン・スルピス大神学院創立60周年と閉校 およびサン・スルピス司祭会来日70周年にあたって

長崎教会管区司教団

にありがとうございました。お名前を挙げることはできませんが、皆様から感謝申し上げます。まこと

最後の司祭となつてしまします。この間日本人の教区司祭は延べ12名、イエズス会はじめ修道会司祭は29名、うち少なくとも17名の殉教者(聖人3名、福者9名)を数えました。因みに、ザビエル以来日本で宣教にたずさわった聖職者は4修道会を合わせておよそ480名ののぼりました。以後、信者たちは司祭なしに、しかし司祭を待ち望みながら220年余にわたって信仰を伝えていきました。

幕末の1865年、浦上の信徒との劇的な出会いを果たしたプチジャン神父様は、その年の暮れから大浦の司教館の屋根裏で司祭養成に着手しました。1870年には横浜教会でも神学生の養成が始まりました。その後、横浜、東京、長崎に神学校が設立されましたが、本格的な養成は、1890年頃までマレーシアのペナンで行われました。パリ外国宣教会の邦人司祭養成に対する熱意とそれに伴う苦勞がしのばれ、彼らにも感謝せざるにはられません。こうして、1882年の大晦日に遂に、迫害後の邦人司祭が3名、大浦天主堂で叙階されました。多数の宣教師のほか、3,000人もの信徒が参列したと言われます。これは、日本の教会の喜びと期待の大きさを物語っています。

1890年以後は長崎と東京で大神学生の養成が行われました。1929年に設立された東京公教大神学校は、1932年から太平洋戦争が終わるまで

正式に日本唯一の大神学校としての役割を果たしました。戦後、全国教区長会議の決議を受けて、布教聖省は1947年に東京カトリック神学院、1948年に福岡サン・スルピス大神学院の設立を認可しました。以来、11の教区の神学生は東京で、5つの教区の神学生は福岡で養成されて、今日に至りました。

2. 感謝

教区司祭養成のために1645年にパリで創立されたサン・スルピス司祭会が、福岡教区のブルトン司教様によって招聘され、1933年にレージェ、プレヴォ両神父様がカナダから福岡にいられました。彼らは、東京の大神学校入学を目指す神学生を養成するため大牟田に予科神学校を設立して福岡での司祭養成を始め、戦後の大神学校設立の布石を敷いたのです。この60年間で、当神学院から268名の司祭が輩出いたしました。彼らの養成のために、教皇庁福音宣教師、歴代の各教区司教様方、サン・スルピス司祭会、講師、聖ヨゼフの小さき姉妹会、幼きイエズス修道会、職員の方々、信徒、国内外とくに後援会、ドイツ・ケルン教区の恩人の方々を通して神様から言葉に尽くせない恵みを賜りました。すでに御父のもとに召された方も多数おられます。一人ひとり

の功績を挙げることはできませんが、皆様から感謝申し上げます。まことにありがとうございました。それでも、故峯定夫様、久保守先生、幼きイエズス修道会のシスター方には格別な感謝を申し上げます。この方々は、それぞれ職員、秘書と講師、調理等の責任者として50年以上にわたって奉仕してくださいました。方々です。ほんとうにありがとうございました。また、サン・スルピス司祭会カナダ管区の会員は、カナダの会員、家族や親戚など多くの恩人たちの助けを仰ぎながら、今日に至るまで司祭養成一筋に務めてきてくださいました。これまでご尽力くださった同会を代表する方々として本日の記念式典にご臨席の総長ロナルド・ウィザラップ(Ronald Witherup)神父様とカナダ管区長ジャック・ダルーシ(Jacques D'Arcy)神父様、静養中のからだを押してカナダから帰って来てくださったイエール神父様に心よりあつく御礼申し上げます。まことにありがとうございました。最後に、この神学院に在籍したすべての神学生、司祭・司教に叙階された同窓生の皆様方にも感謝申し上げます。皆様方が司祭召命を真摯に受けとめ、教会の奉仕者として、また信徒としてたゆまず生きておられることが九州・沖縄のみならず日本の教会に貢献し続けていることに敬意を表し、今後ますますのご活躍をお祈りいたします。(2面つづく)

波止ターミナルに集合
13時からミサと記念講演
講師・中田輝次郎 参加
費千円 ※昼食は各自で
用意ください。
申込先・各小教区責任者
▼信徒発見ミサ 3月17
日(火)19時 大浦天主堂
▼助祭・司祭候補者認定
式 3月22日(日)16時 浦
上教会
▼心のともしびテレビ番
組お知らせ 4月11日(十)

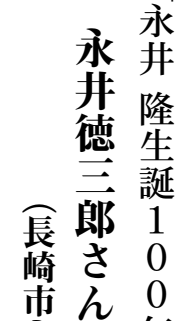
「準備など入れますと、足かけ4年になりますか、ミニリレー講演、コンサートなど」(平成19年2月3日)〜平成20年5月1日)の観客数は延べ2千人を超えたと思います。期間中



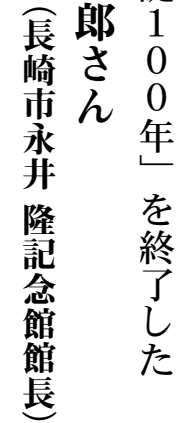
2月2日夜、長崎原爆資料館ホールで永井隆生誕100年、終了式典で、博士の孫・徳三郎さんは会場の参加



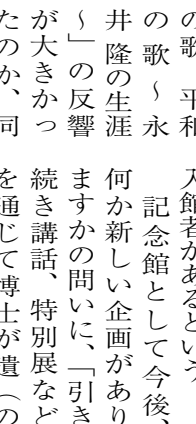
は、長崎大学医学部、長崎平和推進協会、その他関係各団体の皆さまに大変お世話になりました心から感謝しています」



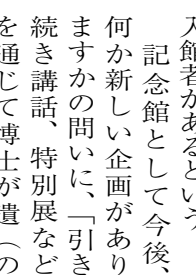
「永井隆生誕100年」を終了した永井徳三郎さん(長崎市永井隆記念館館長)



市のお礼を述べた。長崎には11年前、横浜の職場を退いて両親とともに帰り「長崎如己の会」の役員として



参観者も多い。中でも韓国の大邱(テグ)からの信徒が目立つ。大邱の教区長を務めた李文熙大司教の著書「愛の歌、平和の歌、永井隆の生涯」の反響が大きかったのか、同



の修学旅行生、一般観光客と続くが、1年間を通して見ると、ピークは5月から7月、多い日には1日4千人の入館者があるという。記念館として今後、何か新しい企画がありますかの問いに、「引き続き講話、特別展などを通じて博士が遺(のこ)した、『如己愛人』の言葉を後世に伝えたいですね。浦上教会所属。



殉教劇の一場面



プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。



お告げのマリア修道会新役員決まる

1月23日〜29日、お告げのマリア修道会第6回総会が長崎市小江原の本部修道院で開かれ、新役員が次の通り決まった。

稲田、山内神学生日本カトリック神学院進学

第8回長崎コレジオ卒業式が、2月15日大浦教会で、高見大司教を迎えて行われた。卒業生はヨゼフ稲田伸也神学生(諫早教会・下川英利師)とパウロ山内啓輔神学

生(田平教会・烏山邦夫師)の2人。コレジオから久しぶりに複数の卒業生が出たことに、関係者の喜びも倍となった。卒業式で高見大司教は、来年度から東京と福岡の大神学院が合同になり、日本カトリック神学院となることをあらためて紹介、「東京キャンパスと福岡キャンパスでの勉学と信仰養成に努めるよう」励ました。

上五島地区評議会主催「教会音楽を楽しむ集い」は2月8日新上五島町・石油備蓄記念会館で行われ、

は教区司祭。長い闘病生活のうちにあったが生涯にわたり祈る人だった。葬儀ミサと告別式は18日、40余人の司祭、聖堂あふれる参列者とともに田平教会で行われた。

800人余の入場者があった。当日は11小教区による歌楽器演奏、舞踊、188殉教者にちなんだ趣向を凝らした出し物など舞台狭しと熱演、あつという間の3時間を楽しんだ。

「守り」に回らない信仰を示した殉教者

2月1日、午後2時、26聖人殉教記念ミサが好天に恵まれた西坂公園で行われ

た。昨年の188殉教者列福式に参加した人も多数あり、ミサ前には列福式以来の再会を喜び合う姿も見えた。ミサは高見三明大司教と、約50人の司祭によつ

てささげられた。よい天氣が幸いして、殉教者公園には2千人の参列者が集まった。参列者の目を強く引きつけたのは、祭壇のそばに置かれたデイエゴ喜斎の聖遺骨を納め

た顕示台。26聖人の存在を身近に感じることができた。

今年の殉教記念ミサの説教は26聖人記念館の館長でイエズス会のレンゾ・デルカ神父が務めた。まず、参列者の正面に見えている26聖人のレリーフに注意を向けさせ、彼らの中に2人だけ両手を開いたポーズの聖人がいて、1人はパウロ・三木、もう1人はペトロ・バプチスタ神父であることを説明し、パウロ三木ほど取り上げられていないペトロ・バプチスタ神父に光を当てて説教を進めた。

ペトロ・バプチスタ神父は、自分たちの処刑地に会員が来ないでほしいと願っていた。それは、命をささげなければならぬことと、フランシスコ会の会員が一度に3人も失われてしまう事実の間で葛藤(かつらつ)したことと表れた。それでも神のみ旨を信じて殉教者となっていたことを、今年の記念ミサから学んでほしいと呼び掛けた。

守らなければならないものと、信仰のために思い切つて手放さなければならぬものを知り、神のみ旨を信じて生きていく力を得るミサとなった。

「教会音楽を楽しむ集い」上五島地区評議会主催

上五島地区評議会主催「教会音楽を楽しむ集い」は2月8日新上五島町・石油備蓄記念会館で行われ、

は教区司祭。長い闘病生活のうちにあったが生涯にわたり祈る人だった。葬儀ミサと告別式は18日、40余人の司祭、聖堂あふれる参列者とともに田平教会で行われた。

800人余の入場者があった。当日は11小教区による歌楽器演奏、舞踊、188殉教者にちなんだ趣向を凝らした出し物など舞台狭しと熱演、あつという間の3時間を楽しんだ。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

「教会音楽を楽しむ集い」上五島地区評議会主催

上五島地区評議会主催「教会音楽を楽しむ集い」は2月8日新上五島町・石油備蓄記念会館で行われ、

は教区司祭。長い闘病生活のうちにあったが生涯にわたり祈る人だった。葬儀ミサと告別式は18日、40余人の司祭、聖堂あふれる参列者とともに田平教会で行われた。

800人余の入場者があった。当日は11小教区による歌楽器演奏、舞踊、188殉教者にちなんだ趣向を凝らした出し物など舞台狭しと熱演、あつという間の3時間を楽しんだ。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

「教会音楽を楽しむ集い」上五島地区評議会主催

上五島地区評議会主催「教会音楽を楽しむ集い」は2月8日新上五島町・石油備蓄記念会館で行われ、

は教区司祭。長い闘病生活のうちにあったが生涯にわたり祈る人だった。葬儀ミサと告別式は18日、40余人の司祭、聖堂あふれる参列者とともに田平教会で行われた。

800人余の入場者があった。当日は11小教区による歌楽器演奏、舞踊、188殉教者にちなんだ趣向を凝らした出し物など舞台狭しと熱演、あつという間の3時間を楽しんだ。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

「教会音楽を楽しむ集い」上五島地区評議会主催

上五島地区評議会主催「教会音楽を楽しむ集い」は2月8日新上五島町・石油備蓄記念会館で行われ、

は教区司祭。長い闘病生活のうちにあったが生涯にわたり祈る人だった。葬儀ミサと告別式は18日、40余人の司祭、聖堂あふれる参列者とともに田平教会で行われた。

800人余の入場者があった。当日は11小教区による歌楽器演奏、舞踊、188殉教者にちなんだ趣向を凝らした出し物など舞台狭しと熱演、あつという間の3時間を楽しんだ。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

「教会音楽を楽しむ集い」上五島地区評議会主催

上五島地区評議会主催「教会音楽を楽しむ集い」は2月8日新上五島町・石油備蓄記念会館で行われ、

は教区司祭。長い闘病生活のうちにあったが生涯にわたり祈る人だった。葬儀ミサと告別式は18日、40余人の司祭、聖堂あふれる参列者とともに田平教会で行われた。

800人余の入場者があった。当日は11小教区による歌楽器演奏、舞踊、188殉教者にちなんだ趣向を凝らした出し物など舞台狭しと熱演、あつという間の3時間を楽しんだ。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

「教会音楽を楽しむ集い」上五島地区評議会主催

上五島地区評議会主催「教会音楽を楽しむ集い」は2月8日新上五島町・石油備蓄記念会館で行われ、

は教区司祭。長い闘病生活のうちにあったが生涯にわたり祈る人だった。葬儀ミサと告別式は18日、40余人の司祭、聖堂あふれる参列者とともに田平教会で行われた。

800人余の入場者があった。当日は11小教区による歌楽器演奏、舞踊、188殉教者にちなんだ趣向を凝らした出し物など舞台狭しと熱演、あつという間の3時間を楽しんだ。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

プログラムの幼い子供からお年寄り、司祭、修道女と全員参加を呼び掛け、さらには町内で活躍する一般コーラスも招くなど「教会音楽を楽しむ集い」は年々盛会を重ね、一致協力の精神は小教区活動にも生かされている。

2009年度 生涯養成委員会主催 聖書講座・信仰養成講座のご案内

◇聖書講座(木曜日)午後7時〜8時30分 ◇信仰養成講座(土曜日)午後7時〜8時30分 ○場所: カトリックセンター 2階講堂 (公開聖書講座はホール)
○申込期間: 3月15日〜4月10日 ○申込先: 〒852-8113 長崎市上野町10-34 生涯養成委員会 電話 095-841-7731 F A X 095-841-7732

聖書講座

「ルカによる福音書とおしてみことばを深めましょう」

月 日	科 目	講 師
4/16	ルカ福音書の概要	高見三明大司教
4/23 4/30	第1章、第2章	岩崎晋吾師
5/7 5/14	第3章、第4章、第5章	熊谷裕司師
5/21 6/4	第6章、第7章、第8章	辻原達也師
6/11	公開講座: 聖パウロの「福音」について	高見三明大司教
6/18	第9章、第10章	紙崎新一師
7/2 7/9	第11章、第12章、第13章	小寺左千夫師
9/10 9/17	第14章、第15章、第16章	山野聖嗣師
9/24 10/1	第17章、第18章、第19章27節まで	谷脇誠一郎師
10/15	公開講座: 「ルカ福音書と聖パウロ」	江川 憲師
10/22 11/5	第19章28節〜第20章、第21章	山村憲一師
11/12 11/19	第22章、第23章、第24章	萩原 劭師

信仰養成講座

(A年度) テキスト「カトリック教会のカテキズム」

「基本的な教え、現教会の動向、日本教会史を共に学びましょう」

月 日	科 目	講 師
4/18	啓示と信仰	盛 克志師
4/25	信仰の源泉としての聖書	
5/9	神への人間の応答	中浜敬司師
5/16	父なる神	
5/23	摂理と堕落	野濱達也師
5/30	人となられた神	
6/6	キリストの死と復活	尾高修一師
6/13	聖霊の働き	
6/20	教会	橋本 勲師
6/27	宣教する教会	
7/4	役割を担い合う教会	山内 実師
7/11	永遠の命	

月 日	科 目	講 師
9/5〜 11/21	日本の教会史①〜⑩※9/19、10/31を除く	レンゾ・デルカ師
12/5 12/12	第2バチカン公会議と近代日本の教会	高見三明大司教
1/16 1/23	要理教育	岩本繁幸師
1/30〜 2/13	小共同体①〜③	中浜敬司師 長野宏樹氏
3/7	修了式(みことば友の会入会式)	

○聴講料: 聖書講座 13,000円 信仰養成講座 16,000円
*科目聴講もできます。1科目(1時間半)千円。

